

JAMの主張

物価上昇による生活苦 処方箋は賃上げのみ 全取引での価格転嫁実現を

2023年1月1日新年号あいさつ

JAM会長 安河内賢弘



【機関紙JAM・2023年1月1日発行 第287号】

謹んで新年のご祝辞を申し上げます。組合員並びにご家族の皆様におかれましては、幸多き初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中に賜りましたご厚情に深く感謝申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

混とんとする国際情勢の霧の中を各国がパンデミック後の世界を模索しながら、一步一步、前進を始めています。一方で日本は外的な要因による急激なインフレと三十年に及ぶ慢性化したデフレという二つの病に罹患しており、世界の潮流から取り残されています。

このような時代においては政治のリーダーシップが切望されますが、残念ながら、岸田内閣は統一教会問題への対応の遅れや相次ぐ大臣の辞任などにより、国民の信頼を急速に失っています。

2年後に向けJAM代表を擁立

しかしながら、私たちJAMが支援している立憲民主党や国民民主党に政権交代への期待が膨らんでいるわけではなく、自公政権への不信は政治不信へとつながっています。これは日本の民主主義にとって極めて不幸な状態です。本年度は国民の政治不信を払拭し、何としても政権交代可能な政治体制を創り上げるとともに、二年後の参議院選挙に向けてJAMの代表を擁立し政策実現活動を強化して参ります。

ものわकारいの悪い春闘を

急激な物価上昇によって私たちの生活は確実に苦しくなっています。日本経済復活のための処方箋は、もはや賃上げしか残っていません。そのためにも、すべての取引における価格転嫁を実現し、「価値を認めあう社会へ」の運動を強化しなければなりません。ものわकारいの悪い春闘と、ものわकारいの悪い価格転嫁交渉を同時に実現させましょう。

エネルギー価格や原材料の高騰が経営を圧迫しているからと言って、人への投資を躊躇することは許されません。日本を再び成長軌道に乗せるためにも、合成の誤謬ごびゅうという深い谷底から這い上がり、賃上げを実現しましょう。

最後になりましたが、国内外で働くすべての組合員とそこにご家族の皆様にとって、2023年が健康で幸多き年となりますようにご祈念を申し上げ、ご挨拶といたします。